

【羅生門】

「羅生門」 関連ノート 〈複製〉
「帝国文学」 第21巻第10号 1915（大正4）年11月
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日 〈複製・原本 大阪公立大学資料室蔵〉

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日 〈複製〉

【芥川と児童文学】

芥川龍之介 鈴木三重吉宛書簡 1919（大正8）年11月9日 〈複製〉
「赤い鳥」 創刊号 1918（大正7）年7月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿 〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社

愛用の水泳帽
「文藝春秋」 創刊号 1923（大正12）年1月
『芥川龍之介全集』（1934年 岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黑坂】

パネル 山梨県内の地図
飯田蛇笏・飯田龍太使用の硯
飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

飯田蛇笏「小野の鳶雲に上りて春めきぬ」軸装
飯田蛇笏「谷梅にとまりて青き山鴉」軸装
飯田蛇笏「風さえて宙にまぎるゝ白梅花」軸装
飯田蛇笏「靴下の淡墨にして桜狩」短冊
飯田蛇笏「夕日影せきて古簾や竹の秋」短冊
飯田蛇笏「籠にして桺の二三枝春嵐」色紙
飯田蛇笏「水あかりでゝ虫巖を落ちにけり」額装
飯田蛇笏「嶽腹を雲うつりみる清水かな」軸装
飯田蛇笏「山ふかき飛瀑をのぼる大揚羽」色紙
若山牧水 飯田蛇笏宛書簡 1910（明治43）年7月29日
飯田蛇笏「夏旅や温泉山出てきく日雷」短冊
飯田蛇笏「陽を擁くはアトサヌプリの梅雨の雲」短冊
飯田蛇笏「くろがねの秋の風鈴鳴りにけり」軸装
飯田蛇笏「秋しばし寂日輪をこずる哉」軸装
飯田蛇笏「花卉秋暑白猫いでて甘ゆなり」短冊
飯田蛇笏「いわし雲大いなる瀬をさかのぼる」短冊
飯田蛇笏「深山の日のたはむるゝ秋の空」短冊
飯田蛇笏「寒たまごふところにして閑話哉」軸装

飯田蛇笏「春蘭をくしけづりかく落葉かな」軸装
飯田蛇笏「ふゆに入る真夜中あらき月の雨」軸装
飯田蛇笏「冬枯れの天を感じずる峽磧」短冊
飯田蛇笏「神は地上におはし給はず冬の虹」短冊
写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」額装〈複製・原本 個人蔵〉
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛭かな」額装〈複製〉
写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影
「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複製〉
「俳句欄」（「国民新聞」）切り抜き
「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号〈パネル〉
「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月〈複製・原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「キララ」第2号 1915（大正4）年6月〈複製・原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「キララ」第3巻第11号 1917（大正6）年11月〈複製〉
「雲母」10周年記念号 1924（大正13）年3月〈複製〉
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社
飯田蛇笏『山廬集』序文原稿〈複製〉
飯田蛇笏『靈芝』1937（昭和12）年6月 改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月 河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年2月 起山房
飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月 靖文社
飯田蛇笏「心像」原稿〈複製〉
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年7月 改造社
飯田蛇笏『穢土寂光』1936（昭和11）年12月 野田書房
飯田蛇笏『雪峽』1951（昭和26）年12月 創元社
飯田蛇笏 句集『雪峽』句稿〈複製〉
「雲母」復刊号 1946（昭和21）年3月
写真パネル 飯田龍太撮影 炉辺の蛇笏 1956（昭和31）年1月撮影
飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」軸装〈複製・原本 個人蔵〉
飯田蛇笏「御魂祭折から月の上るなり」短冊〈複製・原本 個人蔵〉
写真パネル 1958（昭和33）年4月8日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林富司夫 撮影 若林賢明
飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月 角川書店
「雲母」1962（昭和37）年10月 蛇笏遺句「山月」掲載
「雲母」1962（昭和37）年11月 龍太「山廬永別」掲載
「雲母」飯田蛇笏特集号 1963（昭和38）年3・4月
飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年5月 角川書店
高浜虚子「山廬」扁額〈複製〉
落款印・印譜

高浜虚子『進むべき俳句の道』1918（大正7）年7月 実業之日本社
前田普羅「山桃の日かげと知らで通りけり」短冊
前田普羅「色かへて夕となりぬ冬の山」短冊〈複製〉
村上鬼城「瘦馬のあはれ機嫌や秋高し」短冊
村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙
原石鼎「満しほにすでに灯つらね川開」短冊
原石鼎「いつも彼の婦なんばん畑に一重帯」短冊
渡辺水巴「何の木か梢そろへけり明の春」短冊

西島麥南「葉桜に風雨の蝶をみたりけり」短冊
西島麥南「菊活くる水絨毯にまろびけり」短冊
石原舟月「桃林の雨あし見えてふりにけり」短冊
石原舟月「高汐の日の座をちかみ冬椿」短冊

宮武寒々「霊場夜半女人浴みぬほととぎす」短冊
宮武寒々「無明より無明へ漕げる魃場かな」短冊
中川宋淵「媼が手に摘まれて草の萌ゆるなり」短冊
中川宋淵「露ながら露ためてをりすすきのほ」短冊
松村蒼石「雨蛙聞く花莫莖に子をおひて」短冊
松村蒼石「たわたわとうすら氷に乗る鴨の脚」短冊
高室呉龍「蜂高く飛ぶ夕空に何もなし」短冊
高室呉龍「石垣のきわの落葉に火をつける」短冊
高橋淡路女「白酒に酔ひしにやあらんたのしかり」短冊
高橋淡路女「土器に星まつる火をともしけり」短冊
柴田白葉女「林泉に日輪映り黒鳳蝶」短冊
柴田白葉女「山の雨やみ冬椿濃かりけり」短冊

【飯田龍太】

飯田龍太「雪の峰しづかに春ののぼりゆく」軸装
飯田龍太「雪山のどこもうごかず花にほふ」軸装
飯田龍太「紺紺春月おもく出でしかな」短冊
飯田龍太「黒猫の子のぞろぞろと月夜かな」色紙
飯田龍太「雪月花わけても花のえにしこそ」額装
飯田龍太「千里より一里が遠き春の闇」色紙
宅間正一「雲母」表紙原画「椿と禽」額装
飯田龍太「訪春」原稿
飯田龍太「後山の記」原稿
飯田龍太「土俵のこと」原稿
永井龍男「桃の甲府」原稿
飯田龍太「夕焼けて夏山おのが場にそびゆ」軸装
飯田龍太「どの子にも涼しく風の吹く日かな」軸装
吉岡堅二画 飯田龍太賛「かたつむり甲斐も信濃も雨の中」額装
飯田龍太「動かざる嶺あればこそ大暑かな」色紙
飯田龍太「目覚めのあとに」(50句)原稿
飯田龍太「山の木」草稿
飯田龍太「『雲母』の終刊について」原稿コピー
飯田龍太「『新編雲母句集』について」原稿
のむら清六 画「雲母」表紙原画「メロン」額装
飯田龍太「紺紺春月おもく出でしかな」軸装
飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」軸装
飯田龍太「満月の冴えてみちびく家路あり」色紙
飯田龍太「吊鐘のなかの月日も柿の秋」軸装
飯田龍太「去るものは去りまた充ちて秋の空」軸装
飯田龍太「茸にほへばつつましき故郷あり」色紙
飯田龍太「露深し不意にめでたき空のいろ」原稿
飯田龍太「碑のことなど」原稿
のむら清六「雲母」表紙原画「桂林照月」額装
飯田蛇笏 高室呉龍宛書簡 1930(昭和5)年3月16日
土屋義郎 画「雲母」発送用封筒
飯田龍太「紙ひとり燃ゆ忘年の山平ら」軸装
飯田龍太「あをあをと年越す北のうしほかな」軸装
飯田龍太「大寒の一戸もかくれなき故郷」色紙
飯田龍太「うすうすと紺のぼりたる師走空」色紙
飯田龍太「枯れはてて濯ぐうしろは山ばかり」軸装

飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」軸装
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」原稿
のむら清六「雲母」表紙原画「あづみ野化粧道祖神」額装
飯田龍太「村住みの余慶」原稿
飯田龍太「旅・歳時記十二月」・「旅・歳時記一月」・「旅・歳時記二月」原稿
写真パネル 甲府中学5年 1937（昭和12）年、1938年頃
写真パネル 百戸の谿口絵写真
「雲母」1951（昭和26）年6月「紺紺」巻頭号
飯田龍太『百戸の谿』1954（昭和29）年8月 書林新甲島
飯田龍太『童眸』1959（昭和34）年3月 角川書店
飯田龍太『麓の人』1965（昭和40）年11月 雲母社 雲母叢書第29篇
飯田龍太『忘音』1968（昭和43）年11月 牧羊社「現代俳句十五人集」第1巻・月報
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」軸装〈複製〉
「俳句」1969（昭和44）年2月
飯田龍太『春の道』1971（昭和46）年10月 牧羊社
愛用の釣り竿
写真パネル 山廬庭前にて 撮影 齊藤勝久 提供 角川学芸出版
飯田龍太『山の木』1975（昭和50）年4月 立風書房
飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年9月 五月書房和装本シリーズの1巻、限定400部
飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月 立風書房
飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年7月 立風書房
飯田龍太『俳句遠近』1986（昭和61）年12月 富士見書房
飯田龍太『山居四望』1984（昭和59）年10月 講談社
飯田龍太『俳句今昔』1988（昭和63）年7月 富士見書房
飯田龍太『遅速』1991（平成3）年12月 立風書房
飯田龍太「『雲母』の終刊について」原稿（写し）
飯田龍太「『新編雲母句集』について」原稿
「雲母」1992（平成4）年7月
「雲母」終刊号 1992（平成4）年8月
『新編雲母句集』1992（平成4）年10月 900号号外
飯田龍太『紺の記憶』1994（平成6）年7月 角川書店
飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成9）年6月 角川書店
落款印
印譜
愛用カメラ 二眼レフ（革カバー）
写真パネル 村の女性・村の農家・村の風景・狐川畔 撮影 飯田龍太
写真パネル 狐川上流 撮影 飯田龍太

第5室 山梨出身・ゆかりの作家

前期展示 4月2日（火）～8月25日（日）

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下 1924（大正13）年 民友社
徳富蘇峰「推倒一世王智勇開拓萬古之心胸」軸装

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」『山梨日日新聞』1888（明治21）年1月12日 パネル

川合信水

川合信水『吾が体験の道』1925（大正14）年9月 生々社
「女学雑誌」第338号 1893（明治26）年2月「雑録」パネル

石橋湛山

『石橋湛山写真譜』1973（昭和48）年3月 東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香『山中共古ノート』第1～3集 1973（昭和48）年6月～1975（昭和50）年6月
廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990（平成2）年7月 日本古書通信社

川合 仁

川合仁『私の知っている人達』1970（昭和45）年10月 藤書房
川合澄男『回想・川合仁』1975（昭和50）年4月 回想川合仁刊行会

望月百合子

矢崎千代二 画「望月百合子肖像」
写真パネル「女人芸術」大阪宣伝旅行 1928（昭和3）年
望月百合子『大陸に生きる』1941（昭和16）年5月 大和書店
望月百合子『限りない自由を生きて』1988（昭和63）年3月 ドメス出版

雨宮庸蔵

永井荷風 筆・画「昼間から錠さす門の落葉かな」色紙
雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988（昭和63）年11月 中央公論社

竹中 労

竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙
竹中労『無頼と荊冠』1973（昭和48）年9月 三笠書房
竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982（昭和57）年6月 白夜叢書
竹中労『鞍馬天狗のおじさんは』（ちくま文庫）1992（平成4）年8月 筑摩書房

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎『テクノクラシイ』1933（昭和8）年4月 新潮社
相田隆太郎『農民文学の諸問題』1949（昭和24）年4月 甲陽書房
相田隆太郎「川中島」草稿

和田芳恵

和田芳恵「灯」草稿
和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年9月 河出書房新社

山田多賀市

写真パネル 45歳の時の山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年3月 大観堂書店

「農民文学」創刊号 1951（昭和26）年9月 農民文化協会

新田次郎

新田次郎「富士を守れ」原稿（複製）

写真パネル 新田次郎（右）と上野晴信（歴史家 山梨県生まれ）

新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年2月再版 朋文堂

新田次郎『芙蓉の人』1971（昭和46）年5月 文藝春秋

石原文雄

のむら清六画 石原文雄肖像

「中部文学」創刊号 1940（昭和15）年4月

石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年7月 高須書房

藤巻宜城

「あぢさゐ」5月号 1922（大正11）年5月

「映象」第1輯 1925（大正14）年4月

「中央線」創刊号 1968（昭和43）年3月

中村鬼十郎

中村鬼十郎『傾斜地の村』1943（昭和18）年9月 アジア青年社

中村鬼十郎「慟哭の川」草稿

中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月 甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平「山の端を月上るなりきりぎりす」色紙

熊王徳平『いろは歌留多』1942（昭和17）年2月 第一芸文社

熊王徳平『甲州商人』1958（昭和33）年9月 五月書房

加賀美 実

加賀美実『昭和初年の青春』1967（昭和42）年6月 福岡書房

加賀美実『恥辱の時代』1974（昭和49）年4月 文化総合出版

加賀美実『哇』1984（昭和59）年4月 文化総合出版

小林 実

小林実「皇居外苑」原稿

小林実『新墾地』1935（昭和10）年2月 吐風書房

小林実『開拓際』康德9年4月30日 満洲事情案内所

「講談倶楽部」第11巻第12号 1959（昭和34）年12月

小林実『白い太陽』第一部・第二部 1961（昭和36）年3月 東京信友社

鳴山草平

写真パネル 鳴山草平「甲府市の自宅で」1937（昭和12）年春

鳴山草平「カミナリ（先生）青春帖 第六話一緑の吹く風の章」草稿

鳴山草平『カミナリ先生青春帖』1960（昭和35）年1月 同人社

羽中田 誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画

羽中田誠『酔いどれ記者』1953（昭和28）年12月 鱒書房

羽中田誠『墓碑銘』1973（昭和48）年2月 東邦出版社

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年2月 アジア青年社

保坂義照『愁風天目山』1952（昭和27）年9月 農村文化協会

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年4月改版 長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和6）年7月 春秋社

『金子文子歌集』1976（昭和51）年3月 黒色戦線社

『金子ふみ子 全歌集 獄窓に想ふ』1987（昭和62）年12月 黒色戦線社

大町桂月

大町桂月「ふもとよりいたゝきまでも富士の根を背負ひてのぼる八ヶ嶽かな」扇面

大町桂月「夜をこめて落葉に雨のかゝりけり」短冊

野尻抱影

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910（明治43）年5月19日（複製）

山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年6月 鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和4）年6月 博文館

「山と溪谷」第168号 1953（昭和28）年6月 山と溪谷社

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月 芸文社

「鶴 nue」終刊号（寺田重雄追悼号）1995（平成7）年10月

芦澤一洋

写真パネル 芦澤一洋「アメリカアイダホ州のヘンリーズフォークで」

芦澤一洋『バックパッキング入門』1976（昭和51）年月 山と溪谷社

芦澤一洋『フライフィッシング全書』1983（昭和58）年 森林書房

芦澤一洋『アウトドア・もの로그』1985（昭和60）年8月 森林書房

山中共古

山中共古『甲斐の落葉』1926（大正15）年11月 郷土研究社

土橋里木

土橋里木『山梨県の民話と伝説』1979（昭和54）年7月 有峰書店

土橋里木『山村夜譚』1993（平成5）年6月 近代文芸社

大森義憲

大森義憲『甲州年中行事』1952（昭和27）年11月 山梨民俗の会

写真パネル 折口信夫と大森義憲

中沢 厚

中沢厚『山梨県の道祖神』1973（昭和48）年5月 有峰書店

中沢厚『つぶて』1981（昭和56）年12月 法政大学出版局

浅川伯教

「白磁」創刊号 1922（大正11）年4月

浅川伯教『釜山窯と対州釜』1930（昭和5）年7月 彩壺会

浅川 巧

浅川巧『朝鮮の膳』1929（昭和4）年3月 工政会出版部

永峯秀樹

永峯秀樹『暴夜物語』第1編・第2編 1875（明治8）年2月、5月 山城屋

矢崎源九郎

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話名作集』1955（昭和30）年3月 筑摩書房

【童話・童謡】

大村主計

大村主計「花かげ」色紙

大村主計『ばあやのお里』1932（昭和7）年1月 児童芸術社

大村主計 童謡集『麥笛』1932（昭和7）年9月 児童芸術社

「楽しい童謡集」レコード盤 1959（昭和34）年 コロムビアレコード

大村主計『花かげ』1981（昭和56）年10月

米山愛紫

「チチノキ」第18冊 1935（昭和10）年3月

米山愛紫『春の停車場』1942（昭和17）年6月 文昭社

『米山愛紫歌謡集 武田節』1975（昭和50）年7月 甲府ライオンズクラブ

小野政方

小野政方『りんごののぞみ』1928（昭和3）年10月 研究社

小野政方『愛児読本』ひらかなの巻 1934（昭和9）年10月 厚生閣

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿

太田黒克彦『マスの大旅行』1956（昭和31）年9月 大日本雄辨会講談社

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店

「シャボン玉」第57輯 1937（昭和12）年2月

塩沢 清

塩沢清『ガキ大將行進曲』1977（昭和52）年4月 旺文社

塩沢清『ぼくもあの子も転校生』1987（昭和62）年8月 ポプラ社

塩沢清『もうひとりのわたしみつけた～理香とチエリの物語～』1992（平成4）年5月 ポプラ社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正6）年10月 玄文社

小林一三『曾根崎艶話』1948（昭和23）年10月 芙蓉書房

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月 日本評論社

「演劇」創刊号 1932（昭和7）年4月

写真パネル 河野義博作品の舞台写真

大木直太郎

「月水金」6 1937（昭和12）年1月

吉野源三郎 脚色 大木直太郎 脚色『君たちはどう生きるか』1978（昭和53）年5月9刷 未来社

『大木直太郎戯曲選集』1998（平成10）年5月 陽光台OAプラザ